KUSATSU 8 2021(令和3年) No.1263
草津市役所：〒525-8588
滋賀県草津市草津三丁目13番30号
編集発行：草津市広報課
☎(077)563-1234、FAX(077)561-2483
（8：30～17：15以外と休日は守衛室 ☎(077)561-2499）
草津市ホームページ http://www.city.kusatsu.shiga.jp/

楽しく学べる！「せっけんで鋳造体験ワークショップ」

かつては「鋳造（ちゅうぞう）」という、溶かした金属を型に流し込んでものを作る技法を使って、鍋などの金属製品が作られていました。この「鋳造」で、自分だけのオリジナルせっけんを作ってみませんか。

◷ ①8月18日(水)14:00～16:00 ②8月21日(土)10:00～12:00
所 ①草津川跡地公園de愛ひろば（大路二） ②教育研究所（青地町）
対 小学生以下の子どもとその保護者
定 各16人〔先着順〕 申 8月4日(水)～17日(火)17:00まで
申・問 歴史文化財課（6階）☎561-2429、FAX561-2488

KUSATSU 歴史ギャラリー No.165

断続的に伝わる絵画

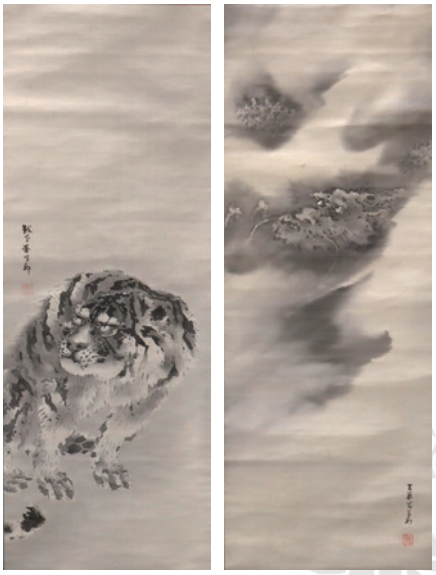
草津宿本陣には、江戸時代に高貴な人のみが利用できる休泊施設であったという歴史故か、当時の著名な画家による絵画類が残されています。岸駒（がんく）筆の「龍虎双幅（りゅうこそうふく）」もその一つです。

昭和3（1928）年1月6日の『大阪朝日新聞滋賀版』で、本陣12代当主・田中森之助氏の紹介とともに、本図に触れられています。記事によると、双幅のうち龍図は焼失したと伝えられていたようで、当本陣の明治天皇行在所としての史蹟指定に関わる調査で発見された可能性が考えられます。

作者である岸駒（寛延2（1749）年または宝暦6（1756）年～天保9（1838）年）は、江戸時代中期～後期、京都画壇で隆盛を誇った岸派（きし）の祖である画家です。特に虎の描写は「虎図は岸駒」といわれるほどでした。当時は本物の虎が見られなかったため、岸駒は虎の皮や頭蓋骨を入手し、観察することで写実性を追求したようです。天保4（1833）年には、岸駒の息子で岸派二代目の岸岱（がんたい）が当本陣に宿泊し、本図の箱書きをしています。

龍虎図の虎は迫力ある姿がよく見られますが、本図では前脚をそろえておとなしく座っており、しっぽはかわいらしい印象です。双幅を並べ見ると、龍図はぼかしを多用する一方で、虎図は比較的輪郭が明瞭でコントラストが強く、表現の対比も魅力です。

本図は、現在草津宿街道交流館・史跡草津宿本陣で開催中の「大解剖!! 草津宿本陣―ほんじん、まるはだか！―」で展示しています。ぜひ岸派の妙味をお楽しみください。



▲岸駒「龍虎双幅」草津宿本陣蔵

問 草津宿街道交流館（草津三）☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」

市ホームページ

ラジオえふえむ草津（FM78.5MHz）「声の広報」

スマートフォン用アプリ
- マチイロ
- SideBooks（ちいき本棚）

草津市メール配信サービス

市の情報をメールで配信するサービス

市公式ソーシャルメディア！

イベントや市政情報、窓口の混雑状況、災害時の緊急情報などを配信！

くさつチャンネル

さまざまな動画を配信。びわ湖放送（BBC）で放送されている草津スケッチもこちらから！

市の花 アオバナ　市の木 キンモクセイ

6月30日現在（対前月比）
- 人口137,038人（＋97）
- 世帯数61,394世帯（＋87）
- 男68,793人（＋30）
- 女68,245人（＋67）

広報くさつは、市ホームページで公開しています。地域まちづくりセンターなどの市の公共施設や、JR草津駅・南草津駅、市内の滋賀銀行各支店、アル・プラザ草津、イオンスタイル草津、近鉄百貨店草津店にも置いています。